

令和5年度（2023年度） 道徳教育パワーアップ地区別研修会

授業づくりのRPDCA

令和5年3月 熊本県教育委員会



©2010熊本県くまモン

熊本県教育庁市町村教育局義務教育課

演習1 「道徳科の授業づくり」

来週の授業は

学年：小学校1年生

教材：はしの上のおおかみ

内容項目：親切，思いやり

授業づくりは、何かからはじめたらいいのだろう。



演習1 「道徳科の授業づくり」

目的 授業づくりの手順が分かる

演習の流れ

1 道徳科授業力向上手引書をもとに授業づくりの手順を説明（20分）

2 教材を使って中心的な発問づくりの演習（40分）

※レジュメ・教材・道徳科授業力向上手引書・学習指導要領解説を使用



演習 1 「道徳科の授業づくり」

目的 授業づくりの手順が分かる

1 道徳科授業力向上手引書をもとに授業づくりの手順を説明（20分）



授業づくりの手順

授業づくりは、何からはじめたらいいのだろう。



内容項目
(道徳的価値)

児童生徒
の実態

教材の活用

指導の意図が明確になっていく

授業構想の時には、年間指導計画で内容項目、教材を確認して授業に臨むだけでなく、児童生徒の実態をしっかり捉えて臨むことが大切です。

- ①内容項目や道徳的価値の確認
- ②指導の要点等をもとにした児童生徒の実態把握
- ③教材の活用

この順番で授業づくりを行うことで、道徳科の指導のねらいが明確になります。これが「こんなことを考えさせたい、こんなことに気付いてほしい・・・」という教師の指導の明確な意図になります。



上に示した道徳科のお団子は一番上の内容項目から食べていきましょう。

内容項目→児童生徒の実態→教材の活用, この手順を大切にして道徳科の授業づくりを行いきましょう。

授業づくりの手順

道徳科の目標

P1



Research

内容項目をもとに
児童生徒の実態把握を行う

P2~P3



Plan

教材を吟味し
授業のねらいと展開を考える

P4~P5



Do

児童生徒の実態やねらいに合った
学習活動を考える

P6~P11

導入の工夫例	P6
書く活動の工夫例	P7
表現活動の工夫例	P8
話合いの工夫例	P9
板書を生かす工夫例	P10
ICTの活用例	P11



Check

道徳科の評価の進め方

P12~P15

※ 本時の学習例

P16~P17



Action

授業を充実させるために

P18

児童生徒とともに考え、
楽しむ授業に向けて

道徳科授業力向上 手引書

授業づくりのRPDCA



授業づくりの手順

1

内容項目
(道徳的価値)

2

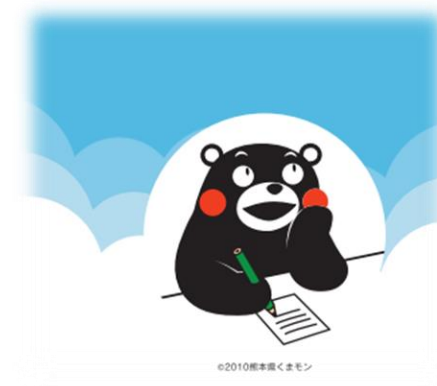
児童生徒
の実態

3

教材の活用



内容項目をもとに
児童生徒の実態把握を行う



©2010熊本県くまモン



内容項目をもとに
児童生徒の実態把握を行う

授業づくりの準備

1

【道徳的価値を確認する】

内容項目
(道徳的価値)

学習指導要領解説(特別の教科 道徳編)の内容項目のページで
道徳的価値を確認しましょう。

7 親 内容項目

〔第1学年及び第2学年〕

身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。

〔第3学年及び第4学年〕

相手のことを思いやり、進んで親切にすること。

〔第5学年及び第6学年〕

誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。

(中学校)

[思いやり, 感謝]

思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。

よりよい人間関係を築く上で求められる基本的姿勢として、相手に対する思いやりの心を持ち親切にすることに関する内容項目である。

(1) 内容項目の概要

自分のことばかりを考えたり、自分の思いだけを主張したりしては望ましい人間関係を構築することはできない。互いが相手に対して思いやりの心をもって接するようにすることが不可欠である。思いやりとは、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に伝えることである。相手の存在の理由や思いだそうとする姿勢が求められる基本的には、相手の立場や気持ちを想像したりすることを通して励ましや援助をすることである。また、単に手を差し伸べることだけではなく、時には相手のことを考えて温かく見守ることも親切な行為としての表れである。相手のことを親身になって考えよとする態度を育てることが期待される。

特に学校生活においては、学校の人々や友達など様々な人と直接的に多様な関わり合いをもてるようにすることが求められる。その上で、相手の立場を考えたり、相手の気持ちを思いやったりすることを通して、思いやりや親切な行為の意義を実感できる機会をつくっていくことが重要である。

内容項目の概要

(2) 指導の要点

■ 第1学年及び第2学年

この段階においては、身近に多くの人々（家族、周囲の人々、学校の先生、友達など）との関わりが第1歩である。発達段階から、心の動きが多くなることが多いが、様々な人々との関わりの中から、相手の考えや気持ちに気付くことができるようになる。

指導に当たっては、幼い人や高齢者、友達など身近にいる人に広く目を向けて、温かい心で接し、親切にすることの大切さについて考えを深められるようにすることが必要である。そして、身近にいる様々な人々との触れ合いの中で、相手のことを考え、優しく接することができるようにすることが求められる。また、その結果として相手の喜びを自分の喜びとして受け入れられるようにし、具体的に親切な行為ができるようにすることが大切である。

■ 第3学年及び第4学年

この段階においては、学校生活を中心として友達同士の交流が活発になるとともに、活動範囲も広がってくる。様々な人々との関わりが次第に増えていく中で、相手の気持ちを察したり、相手の気持ちをより深く理解したりすることができるようになる。一方、ともすると他の人々の感じ方や考え方が自分たちの感じ方や考え方と同様であると思込みがちになることもこの時期の特徴と言われている。そのため、相手に対する思いやりの心を育てることが一層重要になる。

指導に当たっては、相手の置かれている状況、困っていること、大変な思いをしていること、悲しい気持ちでいることなどを自分のこととして想像することによって相手のことを考え、親切な行為を自ら進んで行うことができるようにしていくことが大切である。

■ 第5学年及び第6学年

この段階においては、自他を客観的に捉えることができるようになってくる。そのため、相手の置かれている状況を自分自身に置き換えて想像できるようになる。また、家の周囲や学校といった狭い範囲だけでなく、地域社会における公共の場所など活動範囲がより一層広がり、より多様な人々と接する機会が多くなっていく。

指導に当たっては、特に相手の立場に立つことを強調する必要がある。自分自身が相手に対してどのように接し、対処することが相手のためになるのかをよく考えた言動が求められる。また、人間関係の深さの違いや意見の相違などを乗り越え、思いやりの心とそれが伴った親切な行為を、児童が接する全ての人に広げていくことも大切である。そのため、児童が多様な人々と触れ合い、助け合って何かをするような機会を増やすとともに、それらの体験を生かし、思いやりの心をもつことの大切さについて深く考えられるように工夫する必要がある。

指導の要点



発達段階ごとに指導の際、大切にしたいこと



児童生徒の実態把握を行う際のヒント

7 親切, 思いやり

内容項目
(道徳的価値)

第1学年及び2学年の内容項目

〔第1学年及び第2学年〕

身近にいる人に温かい心で接し, 親切にすること

道徳的価値



内容項目をもとに
児童生徒の実態把握を行う

2

【内容項目の概要や指導の要点を確認する】

ねらいとする道徳的価値についてどのようなことを指導するのか理解するために、内容項目の概要や指導の要点を読みましょう。

第1学年及び第2学年の指導の要点

指導の要点

■ 第1学年及び第2学年

この段階においては、家族だけでなく家の周りの人や学校の人々、友達などとの関わりが次第に増えてくる。発達的特質から自分中心の考え方をすることが多いが、様々な人々との関わりの中から、相手の考えや気持ちに気付くことができるようになる。

指導に当たっては、幼い人や高齢者、友達など身近にいる人に広く目を向けて、温かい心で接し、親切にすることの大切さについて考えを深められるようにすることが必要である。そして、身近にいる様々な人々との触れ合いの中で、相手のことを考え、優しく接することができるようにすることが求められる。また、その結果として相手の喜びを自分の喜びとして受け入れられるようにし、具体的に親切な行為ができるようにすることが大切である。

授業づくりの手順

第1学年及び第2学年の指導の要点

児童の実態は
どうだろうか

指導の要点

■ 第1学年及び第2学年

この段階においては、**家族だけでなく家の周りの人や学校の人々、友達などとの関わりが次第に増えてくる**。発達的特質から自分中心の考え方をすることが多いが、様々な人々との関わりの中から、**相手の考えや気持ちに気付くことができるようになる**。

指導に当たっては、**幼い人や高齢者、友達など身近にいる人に広く目を向けて、温かい心で接し、親切にすることの大切さについて考えを深められるようにすることが必要である**。そして、身近にいる様々な人々との触れ合いの中で、相手のことを考え、**優しく接することができるようにすることが求められる**。また、その結果として**相手の喜びを自分の喜びとして受け入れられるようにし、具体的に親切な行為ができるようにすることが大切である**。

授業づくりの手順



内容項目をもとに
児童生徒の実態把握を行う

3

【児童生徒の実態をもとに本時で
考えさせたいことを決める】

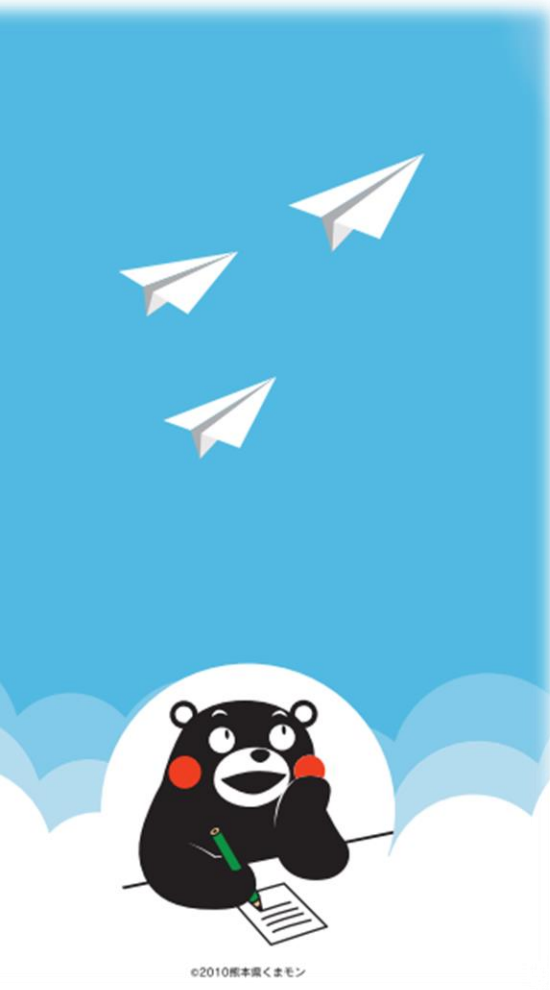
児童生徒の
実態

指導の要点を確認しながら、ねらいとする道徳的価値についてこれまでどのような指導を行ってきたか、その結果としての児童生徒のよさや課題を確認し、本時で考えさせたいことを決めましょう。

こんなことを考えさせたい

こんなことに気付かせたい

授業づくりの手順



1

内容項目
(道徳的価値)

こんなことを考えさせたい

2

児童生徒
の実態

こんなことに気付かせたい

3

教材の活用



Plan

教材を吟味し
授業のねらいと展開を考える



教材を吟味し 授業のねらいと展開を考える

授業づくりの手順

1

【教材を吟味する】

教材の活用

道徳科の教材は、単に読んで話の内容を理解するものではなく、道徳科の授業のねらいを達成するために活用されるものです。ねらいを達成するための指導の意図、児童生徒の実態をもとに、教材のどの場面を取り上げて話し合うのかを考えます。



★Research で決めた考えさせたい部分と重なる場面を捉えます。

価値理解、人間理解、他者理解を深められる場面はどこかという視点を持ちながら捉えていくとよいでしょう。

★児童生徒の実態を思い浮かべながら、教材をどのように活用し、どのような学習を行うのかを明らかにしていきます。



Plan

教材を吟味し 授業のねらいと展開を考える

2

【本時のねらいを決める】

教材吟味で話し合いたいと考えた場面が
ねらいにつながります。

例えば右のように**道徳性を構成する諸様相**
を入れたねらいの表記が考えられます。

※**道徳性を構成する諸様相** (道徳的判断力, 道徳的心情, 道徳的实践意欲と態度)

(学習 (活動)) を通して
(判断力・心情・実践意欲・態度) を育てる

教材の活用

2

【本時のねらいを決める】

例

(学習 (活動)) を通して
(判断力・心情・実践意欲・態度) を育てる

(例)

- ・ **かたが迷った末に、裏山に行かないことを決めた理由を考えることを通して、よいことと悪いことの区別をし、よいことを進んで行おうとする判断力を育てる。**
- ・ **正直に言おうか、だまっておこうか迷う正二の気持ちを考えることを通して、正しいと判断したことは自信をもって行おうとする心情を育てる。**
- ・ **働くことの素晴らしさを見だし主人公の変容について話し合う活動を通して、仕事をすることの喜びについて考え、より充実した生き方を実現していこうとする態度を育てる。**

目標

道徳性を養う
(道徳的な判断力, 心情, 実践意欲と態度)を育てる



道徳的諸価値についての理解

自己を見つめ

物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え

自己(人間として)の生き方についての
考えを深める

学習活動

評価

教え・育てる部分

道徳教育における**道徳性を構成する諸様相**の捉え方

道徳性を 構成する 諸様相

道徳的判断力

それぞれの場面で善悪を判断する能力

道徳的心情

道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、
悪を憎む感情

道徳的実践意欲

道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現
しようとする意志の働き

道徳的態度

道徳的判断力や道徳的心情に裏付けられた具体的な道徳
的行為への身構え



Plan

教材を吟味し
授業のねらいと展開を考える

3

【中心的な発問から考える】

教材文の考えさせたい部分（ねらいの学習活動の部分）を中心的な発問にするとよいでしょう。



POINT
ポイント

1時間の授業の展開を考える際は、「導入」からではなく「展開」の中心的な発問から考えます。

4

【中心的な発問を生かすためにその前後の発問を考える】

5

【導入、終末を考える】

道徳科の目標

道徳科の目標

(「第3章 特別の教科 道徳」の「第1 目標」)

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説(特別の教科 道徳編)、中学校学習指導要領(平成29年告示)解説(特別の教科 道徳編)

(学習(活動))を通して
(判断力・心情・実践意欲・態度)を育てる



道徳性を養うことが道徳科の目標です。

道徳科の目標には、どのような学習活動をするのかが示されています。

道徳科の目標に示されている学習活動は・・・

- ① 道徳的諸価値について理解する
- ② 自己を見つめる
- ③ 物事を(広い視野から)多面的・多角的に考える
- ④ 自己の(人間としての)生き方についての考えを深める

左に示した
4つの学習活動
を通して道徳性を
育成します。



※道徳的価値の理解については、以下の3つが学習指導要領解説に示されています。

価値理解 (内容項目を人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること)

人間理解 (道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解すること)

他者理解 (道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であるということを前提として理解すること)

演習 1 「道徳科の授業づくり」

目的 授業づくりの手順が分かる

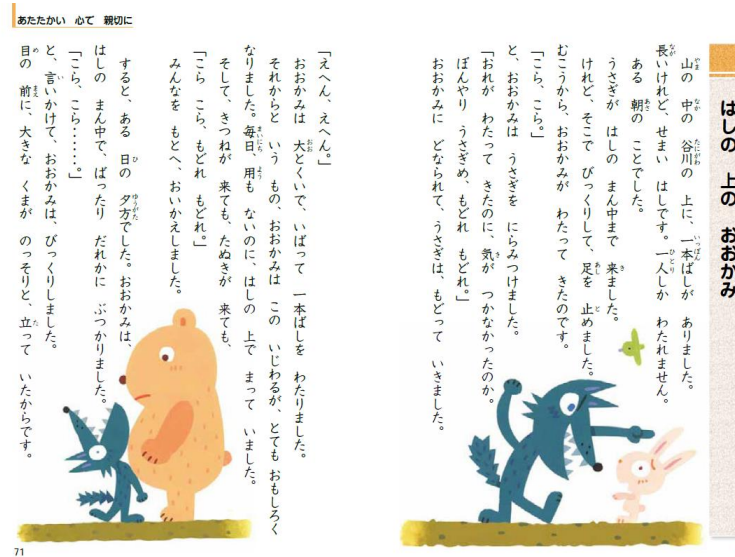
2 教材を使って中心的な発問づくり
の演習



※道徳科授業力向上手引書・学習指導要領解説を使用

教材を使って中心的な発問づくりの演習

中心的な発問を作ってみましょう



はしの上のおおかみ

学年：小学校1年生

教材：はしの上のおおかみ

内容項目：親切，思いやり



教材の内容

おおかみは、ある朝、山の中にある長くて細い一本橋の真ん中でうさぎに出会った。おおかみは、うさぎを追い返し、大いばりで橋を渡ったことが面白くなり、それから用もないのに小さな動物たちを追い返すようになった。ところが自分よりも体が大きいくまに出会ったおおかみは、自分からこそと戻ろうとする。しかし、くまは優しくおおかみを渡らせてくれる。おおかみは、自分に優しく接してくれたくまの姿から、温かく接することの大切さに気付き自分がこれまで意地悪をした動物に優しく接するようになる。

主題名:あたたかい心で親切に (B-6) 親切, 思いやり
教材名:「はしの上のおおかみ」 出典:私たちの道徳 小学校 活用のための指導資料 (文部科学省)

授業づくりステップシート

内容項目
(道徳的価値)

内容項目，道徳的価値を学習指導要領解説で確認

- ①内容項目
- ②道徳的価値

児童生徒
の実態

- ① 道徳的価値に関する児童生徒の実態は？（指導の要点を参考に）
- ② この授業でこんなことを考えてほしい，こんなことに気付いてほしい

教材の
活用

教材を吟味

・考えさせたいところに線を引きながら ・どのように活用し，どのような学習を行うのか考えながら

ねらい

() 学習(活動)を通して
() 判断力・心情・実践意欲・態度を育てる

中心的な発問

授業づくりの例

小学校学習指導要領解説
特別の教科 道徳編 P40～41

第1学年及び
第2学年の内容項目

内容項目

7 親切、思いやり

〔第1学年及び第2学年〕
身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。
〔第3学年及び第4学年〕
相手のことを思いやり、遠慮で敬虔にすること。
〔第5学年及び第6学年〕
誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って敬虔にすること。

〔中学校〕
〔思いやり、敬虔〕
思いやりの心をもって人々をよそよそしく、寛容などの文と多くの人々の尊厳により日々の生活や運動の自分があることに感謝し、遠慮でそれに応じ、人愛の精神を涵養すること。

指導の要点

■ 第1学年及び第2学年

この段階においては、家族だけでなく家の周りの人や学校の人々、友達などの関わりが次第に増えてくる。発達的特質から自分中心の考え方をすることが多いが、様々な人々との関わりの中から、相手の考えや気持ちに気付くことができるようになる。

指導に当たっては、幼い人や高齢者、友達など身近にいる人に広く目を向け、温かい心で接し、親切にすることの大切さについて考えを深められるようにすることが必要である。そして、身近にいる様々な人々との触れ合いの中で、相手のことを考え、優しく接することができるようにすることが求められる。また、その結果として相手の事が自分の事びとして受け入れられるようにし、具体的に親敬な行為ができるようにすることが大切である。

小学校1年生の教材で、実際の授業づくりを紹介をします。

教材の内容

おおかみは、ある朝、山の中にある長くて細い一本橋の真ん中でうさぎに出会った。おおかみは、うさぎを追い返し、大いばりで橋を渡ったことが面白くなり、それから用もないのに小さな動物たちを追い返すようになった。ところが自分よりも体が大きいまに出会ったおおかみは、自分からこそと戻ろうとする。しかし、くまは優しくおおかみを渡らせてくれる。おおかみは、自分に優しく接してくれたくまの姿から、温かく接することの大切さに気付き自分がこれまで意地悪をした動物に優しく接するようになる。

主題名:あたたかい心で親切に (B-6) 親切、思いやり
教材名:「はしの上のおおかみ」 出典:私たちの道徳 小学校 活用
のための指導資料(文部科学省)

内容項目は・・・

「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること」「身近にいる人に温かい心で接すること」「親切にすること」という道徳的価値が含まれている。

指導の要点を読むと、「幼い人や高齢者、友達など身近にいる人に広く目を向けて」・・・とあるけれど、子供たちは、これまでどのような人たちとどのような関わりをしてきているだろうか・・・

入学して以来、6年生をはじめたくさんのお兄さん、お姉さんたちに親切にしてもらってきた。生活科で保育園の子供たちと交流した時、自分たちの遊びに夢になっていたな。

この授業では、自分より幼い人の気持ちを考えて、温かい気持ちで接することのよさを考えさせたいな。

授業づくりの例

この授業では、自分より幼い人の気持ちを考えて温かい気持ちで接することのよさを考えさせたい。

(教材の主な場面)

- ① おおかみがうさぎを追い返した場面
- ② おおかみが自分よりも体の大きいまに出会った場面
- ③ くまがおおかみに優しく接した場面
- ④ おおかみが意地悪をしたうさぎに優しく接した場面

自分より幼い人の気持ち
を考えるにはどこがいい
だろう?

温かい気持ちで接するこ
とのよさを考えるにはど
の場面がいいだろう?

④の自分より小さいうさぎを抱き
上げ、橋をとおしてあげている場
面を使ったらどうだろう?

本時の学習例

(1) ねらい

うさぎを抱き上げ、橋をとおしてあげたおおかみの気持ちを通して、自分より幼い人のことを考えて温かい心で接しようとする態度を育てる。

(2) 展開

過程	学習活動(◇予想される児童の発言)、○主な発問、◎中心的な発問
導入	<p>1 本時の学習課題を知る。 ○今まで親切にされてうれしかったことはありますか。 ○転んだとき、6年生が助けてくれた。 ○一人でいるとき友達がなぐとびに誘ってくれた。</p> <p>親切のよさについて考えよう</p>
展開	<p>2 教材を読み、おおかみの気持ちについて考え、話し合う。 ○くまから抱き上げられ、そっとおしてもらった時、おおかみはどのようなことを思ったのでしょうか。 ○なんでとおしてくれたのだろうか。 ○くまさん、優しいな。 ○優しくしてくれてうれしいな。</p> <p>◎うさぎを抱き上げ、橋をとおしてあげたおおかみは、どのようなことを思ったのでしょうか。</p>
	<p>◇うさぎはうれしかったかなあ。 ◇心がぽかぽかしてきた。 ◇気持ちがいいなあ。 ◇くまから抱き上げられたおおかみも、うさぎを抱き上げたおおかみもどちらも笑顔ですね。どちらの笑顔が好きですか、そのわけは?</p> <p>◇抱き上げられた時の笑顔 ・優しくされるといいなということに気付いた笑顔だから。 ・優しさは広がるね。 ・優しくされるとうれしいから。 ◇抱き上げた時の笑顔 ・自分が優しくして相手が喜んでくれるととってもうれしいから。 ・優しくできたことがうれしいから。</p>
終末	<p>3 自分自身を振り返り、これからの自分について考える。 (1) 思いやりに関わる経験について、これまでの自分を振り返って書く。 (2) 全体で振り返りを共有する。 4 6年生のインタビュー動画を見て、授業を振り返る。</p>

ねらいを考える

ねらいには、中心となる学習活動と育てたい道徳性を構成する諸様相を入れるから・・・

中心的な発問を考える

くまの優しさに触れて、うさぎに親切にしたときのおおかみの気持ちは・・・

中心的な発問の前後の発問を考える

中心的な発問を考えるためには、その前にどんな発問が必要かなあ。

中心的な発問を深めるためには、その後どんな発問が必要だろうか・・・

授業づくりの手順

1

内容項目
(道徳的価値)

内容項目は・・・

児童生徒にとって～
自らが道徳性を養うための手掛かり

2

児童生徒
の実態

教師にとって～
道徳性を養うための手掛かりと同時に
授業づくりの手掛かり

3

教材の活用



まずは、
学習指導要領解説の
内容項目を読むことから
はじめてください。

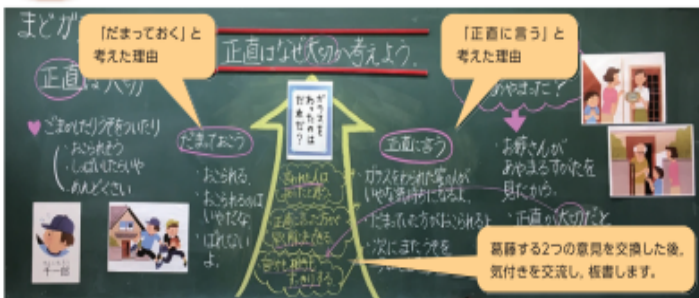




児童生徒の実態やねらいに合った学習活動を考える

板書を生かす工夫例 葛藤パターン (矢印の活用)

よさ 登場人物の葛藤や役割演技等を通した気付きを分割して板書すると、共通点や相違点が視覚的に分かりやすくなります。



主題名:自分に正直に (A-2) 正直, 誠実 教材名:「まどガラスと角」 出典:小学どうとく生きる力③ (日本文芸出版)

POINT

- 2つの対立した意見を話し合った後、気付きを矢印の中に書くことで、自分たちの気付きが「本時のめあて」に向かっていることを意識させることができます。
- 一番考えさせたいところを板書の中心に置いていくと、インパクトのある板書になります。「縦書き」か「横書き」かは、効果を考えて授業者が決めます。

表現活動の工夫例 役割演技

よさ 登場人物の思いを即興的に演じることで、自分事として捉えやすくなり道徳的価値への理解を深めることができます。

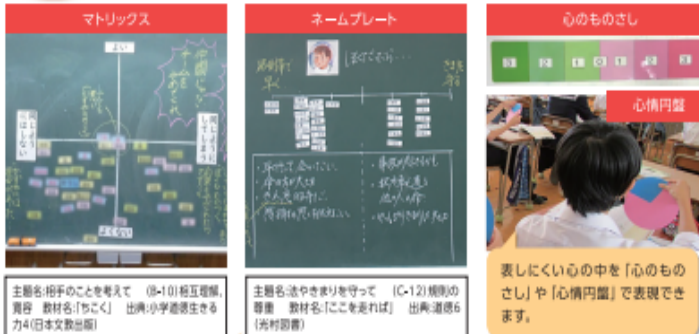


POINT

- 即興的に演技をすることは、自分の感じ方や考え方を磨くということです。児童生徒の発言に問い返しをしたり、参観している児童生徒の思いを問いたりすると、考えは更に深まります。
- お面や役割カードなどの小道具を活用したり、場面に切り替わる時に、ベルや「よーい アクション」などの合図を送ったりすることで、役になりきる手助けとなります。

話し合いの工夫例 ツールを使った話し合い

よさ 児童生徒相互の考えを明確にでき、多様な考えに出会い、認め合うことにつながります。



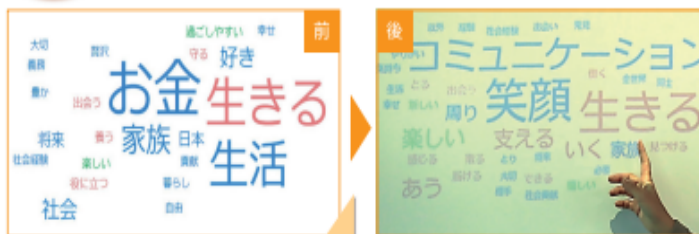
自分の考えに合った立ち位置を「ネームカード」で示します。その後、それぞれの立場で全体交流をします。

POINT

- 自分の立場や気持ちを思考ツールを使って表させた後、例に示したような問い返しをすると更に児童生徒の考えが深まります。(例:どうしてそう思ったの?経験したことあった?みんなはどう思うの?)

ICTの活用例 一人一台端末の効果的活用

よさ 児童生徒の表れにくい心の中を可視化したり共有化したりすることができます。



授業前と後の児童生徒の考えの傾向の比較から、授業での学びを共有することができます。

POINT

- 一人一台端末は、アイデア次第で様々な活用方法を工夫することができます。児童生徒の学習意欲を高め情報活用能力を育むことが期待できます。
- ねらいとする道徳的価値に迫るために効果的かどうかという視点大切に、指導の明確な態度をもって活用することが重要です。

※道徳科授業力向上手引書には、「導入の工夫例」や「書く活動の工夫例」等も掲載しています。



道徳科の評価の進め方

? 何を評価するのでしょうか。

道徳科の授業は、道徳性の育成を目指して行います。しかし、道徳性が育ったかどうかを評価するものではありません。道徳科では、児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を評価します。

? 学習状況とは何ですか。

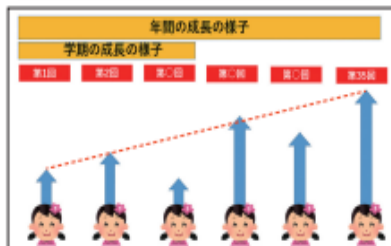
道徳科の目標に示されている学習活動で見られる児童生徒の発言や記述、学習活動をしている児童生徒の姿のことで、

道徳科の目標に示されている学習活動は・・・

- ① 道徳的諸価値について理解する
- ② 自己を見つめる
- ③ 物事を(広い視野から)多面的・多角的に考える
- ④ 自己の(人間としての)生き方についての考えを深める

つまり左の学習活動で見られる児童生徒の学びの姿に着目して評価を行います。

? 道徳性に係る成長の様子とは何ですか。



1単位時間の授業だけでなく、1週間、1学期の道徳科の目標に示された学習活動(学習状況)を積み重ねた結果としての学習状況の成長の様子です。大きくくりなまとまりを踏まえた個人内評価を行うことが求められます。

POINT 「大きくくりなまとまり」とは? 年間や学期といった一定の期間のことです。

? 学習状況を把握するためにはどうしたらよいですか。

まずは、道徳科の目標に示されている学習活動を行うことが必要です。そして、児童生徒の学びの姿を把握していきます。学習指導要領解説では次の2点で学習状況を把握していくことが示されています。

●一直的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか。

●道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。



本時の学習例 (小学校)

主題名：あたたかい心で親切に (B-6) 親切, 思いやり
 教材名：「はしの上のおかみ」 出典：わたしたちの道徳 1・2年 (文部科学省)

この授業では、自分より幼い人の気持ちを考えて温かい気持ちで接することのよさを考えさせたい。

(1)ねらい
 うさぎを抱き上げ、橋をとおしてあげたおかみの気持ちを考えるを通して、自分より幼い人のことを考えて温かい心で接しようとする態度を育てる。

(2)展開

過程	学習活動(◇予想される児童の発言), ○主な発問, ◎中心的な発問
導入	<p>1 本時の学習課題を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今まで親切にされてうれしかったことはありますか。 ◇転んだとき、6年生が助けてくれた。 ◇一人でいるとき友達になわとびに誘ってくれた。 <p>親切のよさについて考えよう。</p>
展開	<p>2 教材を読み、おかみの気持ちについて考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○くまから抱き上げられ、そっとおしてもらった時、おかみはどのようなことを思ったのでしょうか。 ◇なんでとおしてくれたのだろう。 ◇くまさん、優しいな。 ◇優しくしてくれてうれしいな。 <p>中心的な発問 ◎うさぎを抱き上げ、橋をとおしてあげたおかみは、どのようなことを思ったのでしょうか。</p> <p>◇うさぎはうれしかったかなあ。 ◇心がぼかぼかしてきた。 ◇気持ちがいいなあ。 ◇くまに抱き上げられたおかみも、うさぎを抱き上げたおかみもどちらも笑顔ですね。どちらの笑顔が好きですか。そのわけは？ ◇抱き上げられた時の笑顔 ・優しくするといいなということに気付いた笑顔だから。 →優しさは広がるね。 ・優しくされるとうれしから。 ◇抱き上げた時の笑顔 ・自分がやさしくして喜んでくれるのもっとうれしから。 ・優しくできたことがうれしから。</p>
終末	<p>3 自分自身を振り返り、これからの自分について考える。</p> <p>(1) 思いやりに関わる経験について、これまでの自分を振り返って書く。 (2) 全体で振り返りを共有する。</p> <p>4 6年生のインタビュー動画を見て、授業を振り返る。</p>

- 【評価の視点1】 うさぎを抱き上げ、橋をとおしてあげたおかみの気持ちについて考えたり、話し合ったりしている。(方法：発言・シート)
- 【評価の視点2】 自分より幼い人への関わりについて、これまでの自分を振り返ったりこれからのことを考えたりしている。(方法：発言・シート)

授業づくりの手順

Research

内容項目をもとに児童生徒の実態把握を行う

Plan

教材を吟味し、授業のねらいと展開を考える

ねらいを考える

中心的な発問を考える

中心的な発問の前後の発問を考える

Do

児童生徒の実態やねらいに合った学習活動を考える

Check

ねらいの中の学習活動に関係する部分を評価の視点にする

本時の学習例 (中学校)

主題名：社会の中の思いやり (B-6) 思いやり, 感謝
 教材名：「バスと赤ちゃん」 出典：中学道徳あすを生きる1 (日本文教出版)

人と人が互いを思いやる心の素晴らしさを考えさせたい

(1)ねらい
 バスの中での出来事におけるお母さん、運転手、乗客それぞれの思いについて考えるを通して、人と人が互いを思いやる心の素晴らしさに気づき、他者に対する思いやりと感謝の心を大切にしようとする心情を育てる。

(2)展開

過程	学習活動(◇予想される生徒の発言), ○主な発問, ◎中心的な発問
導入	<p>1 本時の学習課題を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今までどんな思いやりのある行動をしましたか。 ◇友達に順番をゆずった。 ◇困っている下級生を助けた。 <p>思いやりの心がある社会にするために、大切なことは何だろう。</p>
展開	<p>2 教材を読み、バスの中での出来事について考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○どの場面が心に残りましたか。 ◇運転手さんの発言。理由は、降りようとしたお母さんを止めたから。 ◇乗客のみんが拍手したところ。 <p>中心的な発問 ◎乗客の皆さんの拍手は、どんな拍手だったのだろう。</p> <p>◇何となくつられて拍手(何があったのかな?) ◇運転手さんナイスの拍手 (若いお母さんに声をかけてくれてありがとう。) ◇お母さんへのエールの拍手 (赤ちゃんは泣くものだよ。速速なく乗っていって。) ◇赤ちゃんへのエールの拍手(バスの中は暑かったろう。) ◇乗客の一人として感動の拍手</p> <p>KJ法を使った話し合いの工夫</p>
終末	<p>3 自分自身を振り返り、これからの自分について考える。</p> <p>(1) 思いやりや感謝に関わる経験について、これまでの自分を振り返って書く。 (2) 全体で振り返りを共有する。</p> <p>4 学校生活のスライドや「マザーテレサ」の言葉から、授業を振り返る。 ○今日の授業で、考えは広がったり、深まったりしましたか。</p>

- 【評価の視点1】 お母さん、運転手、乗客のそれぞれの思いについて、考えたり話し合ったりしている。(方法：発言・シート)
- 【評価の視点2】 人と人が互いを思いやる心の素晴らしさを自分事として捉え、書いたり伝え合ったりしている。(方法：発言・シート)

授業づくりの手順

Research

内容項目をもとに児童生徒の実態把握を行う

Plan

教材を吟味し、授業のねらいと展開を考える

ねらいを考える

中心的な発問を考える

中心的な発問の前後の発問を考える

Do


児童生徒の実態やねらいに合った学習活動を考える

Check

ねらいの中の学習活動に関係する部分を評価の視点にする



授業を充実させるために

道徳科授業づくり手順のポイント 	
1	学習指導要領解説（特別の教科 道徳編）の 内容項目のページ で 道徳的価値の確認 をします。
2	道徳的価値についてどのようなことを指導するのか理解するために、 内容項目の概要や指導の要点を確認 します。
3	道徳的価値について、 児童生徒のよさや課題を確認し、本時で考えさせたいこと を決めます。
4	教材を読みながら、 本時で考えさせたいことが教材のどこに含まれるか を考えます（ 教材吟味 ）。
5	本時のねらいを決定 します。
6	中心的な発問 を考えます。
7	中心的な発問の 前後の発問 を考えます。
8	学習活動 （導入、話し合い、書く活動、表現活動、板書、ICTの活用等）の工夫について考えます。
9	ねらいをもとに 評価の視点 を考えます。



授業の準備はできましたか。
子供たちと道徳科の授業を楽しみましょう。

児童生徒とともに考え、楽しむ授業に向けて

道徳科授業力向上 リーフレット

授業づくりのRPDCA

平成 27 年 3 月に小学校及び中学校の学習指導要領等が改正され、「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」と位置付けられました。各学校においては、「自己の（人間としての）生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として社会とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」という道徳教育の目標に向け、様々な工夫を行いながら道徳科の授業に取り組みされていると思えます。しかしながらその一方で、「道徳科の授業づくりは難しい」「どうやって発問をつくったらよいのだろうか」との声も多く聞かれます。

そこで、県教育委員会では、「考え、議論する道徳」の実現に向けて、教員一人一人の授業力向上と校内研修等の充実を図るため本手引書を作成しました。

本手引書では、道徳科授業づくりの基本的な考え方や参考となる学習活動例等を紹介しています。この手引書で紹介する学習活動例等はどれも一つの工夫の例であり、特定の指導方法を「型」として取り入れることを目指すものではありません。各学校においては、創意工夫を生かした授業づくりを進めるために、指導方法を工夫する上で参考にしたり、校内研修用の資料として使用したりするなど、児童生徒や学校、地域の実態に応じて御活用ください。各学校で行われる道徳科の授業が、児童生徒とともに考え、議論し、楽しむ授業となることを期待しています。

熊本県教育委員会

※道徳科授業力向上手引書を
熊本県教育委員会ホームページに掲載しております。



©2010熊本県くまモン

令和 5 年 3 月 熊本県教育委員会

児童生徒とともに考え、
楽しむ授業に向けて

道徳科授業力向上 手引書

授業づくりのRPDCA

令和 5 年 3 月 熊本県教育委員会



©2010熊本県くまモン